

## 452 埼玉県川本町荒川河床の小断層群

西川正己(県立坂戸西高) 西田高久(県立白岡高)  
 矢島敏彦(埼玉大学・教育)

比企北丘陵と櫛引台地の間を流れる荒川の中流域の六堰より植松橋にはN70°Eの断層系が発達する(西川ほか1984, 矢島ほか1985)。

演者らは、今回この地域を更に精査し、また下流の明戸まで拡大して平板測量を行ない、セスナ機による空中写真撮影及びヘリウムガス気球を利用した上空写真撮影も併用して解析を行なった。

その結果、N70°Eの断層は多数の平行断層群として六堰より明戸にかけて分布することがわかった。

また、断層の方向には次の4系統がある。  
 ① NNE-SSW系  
 ② ENE-WSW系, ③ NE-SW系 ④ NW-SE系で、①と②は共役系をなす。河床でのslicken sideから、②は高角度の水平横ずれ断層である。③は約60°傾斜をなすものもある。

N70°E系断層帯は本地域より観音山方向に延びているものと考えられる。

